東京片貝会報

発行所
東京片貝会
中央区日本橋江戸橋1～9
化学工業技術同友会内
電話（271）1922

第十三回懇親総会

四谷の須賀神社で開催

郷土史跡の紹介に感銘

つゆ入りには珍らしい真夏のような小雨時代の部先生たちの苦労話、吉田一雄（小学校々長）、渡辺社長の行方にはいろいろ興味ある話題が紹介された。第十三回懇親総会は昭和四十七年六月十一日（第二日曜）昨年にひきつづき新宿区四谷の須賀神社二階で、太郎、安達基貴、安達鉄太郎、安達忠治（奈良市）佐藤佐平治さんから郷土色のある話題が提供されたり、佐藤浅田喜八郎、同静子、安達潤宗、安達徳太郎、安達竜男氏、安達巳巳、石原佐吉夫、石上やう、五十嵐キヨ、内山サカエ、大矢福次、大塚たけ、小川茂雄、小野塚マツ、神林徳次、大金（総会会費　九万九千円（一人千五百円）内登世、木村勝子、黒崎敬蔵、黒崎和一郎、黒崎すき子、小川七十、小林敏司、小林喜三郎、佐藤正雄、同勝子、佐藤竹吉、佐藤久次、佐藤栄蔵（六名）　二万六千五百円

懇親会風景

当日の参会者次の通り（五十音順）

会員：相崎源次郎、相崎政弘、相崎政弘、相崎源次郎、相崎シン、相川八郎子、口信行、山口ヨシ、山崎キイ、山支払（須賀神社　一万五千五百三十円）

吉池　七万円
菓子　八千円
酒屋　二万四千六百円
旅費酒会　一万二千六百八十円
合計　十二万九千八百円
差引残高　四万九千百円也
（一般会計へ繰入れ）

合計　十七万七千九百円

舞台で歌いまくる有志たち

新年宴会（有志懇親会）

おかち町「吉池」でひらく

本年新春芸懇親会は一月二十八日（日）、おなじみのおかち町「吉池」で開催した。

会場にあつまられた面では十一時過ぎより受付を開始、顔なじみ同志の新年あいさつが飛う。十二時半小林敏司副会長の司会で開会規定の議事を進め、安達会長から挨拶で佐藤真八さんをすいせん、一同簡単なあいさつがあったのち、本年度総会の開催日を五月末か六月上旬にひらくことを承認してその他の協議事項をはかり議事を終了した。

それより恒例七福の音頭で乾杯して宴会にうつる。この間、相崎里との連絡上にも得るところ多い勇次さん恒例の獅子が渡辺武郎さんら会員の手にわたしては、各人毎に景品がおくられた。

なにしなさまい会場を後にし、ろなく盛会でしめられ、散会した。

東京：相崎源次郎、相崎政弘、相崎源次郎、渡辺武郎、広井三代次、藤塚太郎、藤塚三郎、藤塚直樹、藤田勝司、安達巳巳、安達竜作、新野今朝二、五十嵐キヨ、菅川とし、内山サカエ、大矢福一、大塚たけ、小川茂雄、小野塚マツ、神林徳次、大金（総会会費　九万九千円（一人千五百円）

当日の収支つぎのとおり

会費五十九人　七〇、八〇〇円
イ、小林敏司、同サワ、小林倉三　寄付金　十五人　二六、七〇〇〃
郎、小宮とく、佐藤康正　来賓祝儀　一人　三、〇〇〇〃
雄、佐藤竹吉、佐藤久次、芝佳七、芝二四司、芝昌、品田栄治、清水太郎、田中きみ、鶴田国茂、綿　合計　一〇〇、五〇〇円
塚タ、丸山春司、丸山次、丸山　支払　吉池　七二、七〇〇円
ふジ、丸山春、沼倉きく、三重県　菓子　四、二三五〃
繁殿、美濃行うう、茂輪ミネ、水　雑費　三、五七〇〃
口孝治（会計）武藤勝子、早川松　合計　八〇、四九五円
　　二〇、〇〇五円
　　差引残高
　　（一般会計へ繰入れ）

有志の秋季懇親ピクニック

秋冬さわかにはれた十月一日ったり、散開に小国をたのしんだ（日）本会恒例による親ピクニックは、奥多摩の品勝地「鳩ノ巣」で開催した。

はとの巣駅前にて

この朝午前九時、二十は新宿二丁丸山貴司、品田栄治、安達市郎、幸町八横合九分二十五分新宿発安達徳作、佐藤正雄、佐藤真八、若井やう、山崎きい、長谷川、以上九名

の臨時列車「おくたま号」に乗車車内では丸山さん持参の折詰、酒を傾け上機嫌にメールをあげ十時四十分鉄道に到着、直ちに引返して十一時ニ鳩ノ巣の会場一心不乱に期待される。また山岸司さんと同級の間柄であり、郷里との連絡上にも得るところ多い。

さっそく渓流呂で汗を流したあと、昼食をかねた宴会にうつる。鯛のあらい、にじますの塩焼、山菜料理を味いながらビールや酒で杯をかさねて、満腹の食にひたる。

それならまお緑うつい渓谷の奇景をバックに記念のスナップをとり、会員一同の写真を撮影して二時半過ぎ散会した。

会員各位にお願い

最近、住所標示変更による新町名制度と、転居先の通知がありませんため、ご案内状等が配達不能となる事例が多くあります。変更のあり次第ご通知願います。なお転居ご利用の郵便局へお払い込み下さい。なお第十二回総会の会費をもの通り記載しましたから記載願います。係より

会費（一ヵ年分）金三百円也

有志役員懇談会

本会では役員の老化による会運営の沈滞を挽回し、若がえりの新風を吹きこむため青壮年層の各クラス幹事に呼びかけ参加を求め、四月二十二日正午からおかち町駅前の「吉池」で左記の諸氏が出席し具体策を協議した。

なかには現役員総退陣の声も出たが、選手の交代制を確保することが意図であるとの結論で、来る六月十一日の総会にはかるべく多数の各クラス新人に出席してもらい、総会のひきつぎを協議することにした。

当日の出席者つぎの通り

相崎源次郎、安達市郎、安達徳作、青木富代、小川茂雄、小野塚五八、佐藤正雄、丹治きみ、鶴田国茂、藤塚忠三郎、本田勝作、渡辺左武郎、長谷川事務局、以上十六名

かたりあい

ちかごろ経済生活が安定したせいか、どこでもクラス会がさかんである。とりわけ少年時代を一緒に学び遊んだ同窓生は親近感が深い。ときたまお互いに語り合う機会をもつことは、楽しい人生のうるおいともなる。

しかしクラス会はあくまでもクラス会で限定されたひとつのつながりの輪にしか過ぎない。この輪が郷土を同心円として大きく発展したのが、ただそれは「同窓片貝会」であるといってもおかろう。そこには年令の違い、職業、環境の違いがあっても、なんとなくクラス会とはまた違った味いのあるふんいきが漂き、社会性をもった集団の力が結ばれてくる。明治、大正、昭和の戦前と戦後と時代層を通じ流れる考え方には相違はあるが私心をなくして協調するまどいのなかから感情をひとつにする美しい心情のもりあがりを期待したい。

奥湯河原温泉
政府登録（登旅210号）国際観光旅館
仙境　野天風呂
有鄰荘
お申込は
電話　0465－62－3111～6
直営東京案内所　電話（712）4622
日本交通公社・近畿日本ツーリスト
小田急各案内所

Tea Room
まるやま
東京都港区赤坂3－20－1
電話　東京（583）2303
地下鉄赤坂見付駅下車3分

鮨種専門
株式会社　富春商店
売場　東京都中央卸売市場内（2023）
電話　直通（541）9138
福井カツ

先師の墓前に法要

遺徳しのび教育感謝祭

「人づくり」はまず郷風の精神作興からはじまる……本会がさきに片貝郷党人によびかけた「教育感謝祭」の儀は全町民の賛成支援のもとに八月十四日、真夏の太陽もゆる仲使山の「遊山台」でおごそかに仏式で執行された。

午後二時、はれの装束にあらためた浄照寺（小林文雄）同前寺、正願寺、観音堂の各導師五名が入場し、先師の墓前にいならぶ、祭壇には生花が供えられ、あかあかと灯明がゆらめき、柴の香煙が流れる。

山口幸治さんの司会で式典の幕をひらく。主催者側を代表して片貝町協議会長の安達基吉さんがたって、「戦後の行き過ぎた民主主義が日本古来からの良風美俗をおし流し、いたずらに自己中心主義の放逸生活にたんできする風潮が見うけられる。かかる時流に際会し、はやくから片貝文化の興隆に貢献して、寺小屋時代の先師をこの遊山台にまつられた郷里先輩たちの徳風をしのび、あわせて先師の遺徳に感謝することは、次代を担う青少年たちにとって深き意義あること」とのあいさつをおこなう。つぎに本祭典の執行者である片貝城趾等管理委員会々長の佐藤佐平治さんが、別項趣旨の言葉を感慨こめて述べたあと、読経にうつる。朗々たる読経の余いんが、静かな山気に和して黙念合掌する参列者一同の胸底をそくそくと揺すぶってゆく、おそらくは半世紀（五十年）の間、風雪にさらされ顧ることのなかった先師たちの霊よ、いまこそ安らかにしずまりたまえ。

人間形成のとおとい仕事が、片貝の未来をひらく若い子弟たちにすこやかな感化をもたらすであろう……参会者の心から心へ、無言の祈りが捧げられた。

このあと小千谷市会議長、同公民館長、先師の遺族、各役員たち順次により懇ろな焼香がつづく。おわって浅田壮太郎さんが「遊山台縁起」とも申すべき、先師たちの業績について、詳細に調査された資料により、たくみな話術で印象的な講演をおこなった。これより前記諸氏の来賓所感がひろうされ、酒杯を汲み交わし親睦のひとときを過ごす、遺族代表（内山さかえ、相沢…北濱先生）の謝辞があり第一回教育感謝祭を終幕した。

なお、有志のほか片貝小、中、高校の校長、教員、生徒たち約五十名が参加した。

今回の教育感謝祭はお盆の殺人的交通ラッシュ時に挙行されたので、東京から代表として小林敬司、内山さかえさんら数名に過ぎなかった。いずれ郷里とも十分に連絡して、仲秋快適の気候のおり開催されんことを念願している。

教育感謝祭の弁

お盆休みの暑最中、本日の催しに際しまして多数ご参加をいただきまことに有難う存じました。教育感謝祭は東京片貝会からの呼びかけがあり、協議をかさねた末、ここに片貝町協議会と片貝町城趾等管理委員会が共催で挙行した。申すまでもなく明治初年に小学校令が発令される以前の寺小屋時代でありまず。江戸の末期ごろから朝陽館があり後に耕読堂と改名され、ここに教鞭をとられた恩師たちは、いわば片貝文化の源泉となられたわけで、その諸先生がたの遺徳に対して感謝の意を表しあわせて私どもが今日あるを喜びたいと存じましてこのお祭りを開催した次第であります。当初はこの諸先生の墓碑は片貝の各所にあったのですが、明治二十年代ごろにこの山をひらき遊山台と名づけ、一場に集め由緒のある墓所とされたのでありまず。その頃はいろいろの行事が多分にあったかと存じますが、私の記憶としては絶えてありません。また最近ではこの存在すら知らない人たちばかりかと思います。

昨今の世相では暖かい人情もすたれてしまって先人の遺された業績も知る由もありません。敗戦後の状況にかんがみ、日本の伝統ある美徳、片貝の醇風を再興したい念願からまず人づくりは教育からの原点に立ちかえって、旧慣をあらたに感謝のまこころをさらに後世に伝えることができればとの念願からにほかなりません……。

佐藤佐平治

昭和四十七年度収支決算報告

自昭和四十七年一月　至昭和四十七年十二月

収入の部	
繰越金（前年度繰越金）	一八、三五五円
会費（昭和四十七年度分）	二一、二三〇〃
寄付金（総会その他を除く）	三九、〇〇〇〃
広告料（会報第十号分）	二〇、〇〇〇〃
繰入金（総会・新年宴会残金）	一〇〇、二八〇〃
利子（銀行預金利子）	一、七一一〃
合計	二〇〇、五七六円
支出の部	
通信費（会報発送用）	一四、八五〇円
同（その他一般用）	四、八四〇〃
印刷費（会報印刷費）	二三、五六〇〃
同（その他プリント）	六、七〇〇〃
事業費（片貝教育感謝祭、バレーボールチーム、花火大会等寄付金、旅費補助その他）	五八、四〇〇〃
同（慶弔費、行事費、その他）	四一、八三〇〃
事務費（事務所費、一般事務費、交通費、編集費 事務係手当等その他）	二八、八三〇〃
合計	一七八、〇一〇円
差引残高（次年度へ繰越）	二二、五六六円
外に別途積立金	五四、五〇〇円

右の通り収支決算報告致します

昭和四十八年一月

東京片貝会　会計委員

仲使山遊山台忠魂碑前の慰霊祭

＝思い出のアルバムから＝

前首相の佐藤栄作さんは沖縄の本土復帰をさいごに戦後はおわったといった。GNP（国民総所得）が世界第二位とやらになったとたん円のきりあげ、土地、株式、商品の投機買占めやらで高まるインフレのなかで自由党の屋台骨が崩れだした。

かつて太平洋戦争の激闘のなかで、南溟の海底で水漬き、ジャングルの奥で野ざらしとなっている貴い犠牲となった無数の遺骨がはるかなる祖国をしのびながらいまもなお哀号している。

その思い出のアルバムから片貝にゆかりのあるつぎの写真をとりあげてみた。

写真は三重堀文吉（寺町、十七才七十一期生、航空、十八年南方戦線で戦死）小林徹理（浄照寺の生れ、海軍少将呉防衛隊司令、戦後数年にして物故）大平高（高梨十九才七十期、十八年ソロモン沖で戦死）高橋忠夫（四ノ丁、二十才六十八期生、航空、現在東急建設常務として活躍）この写真は海軍兵学校時代（昭和十五年）のもので呉で撮影した。

左から三重堀文吉、小林徹理、大平高、高橋忠夫の諸氏

女子バレーチームの大会上京

昭和四十七年八月十五日

中学校の全日本バレーボール大会に新潟県代表として、はれの出場する片貝中学校女子バレーボールチーム選手一行二十五名は、校長、穴沢教頭、監督教諭などに引率されて八月十四日午前、特急「とき」で上野駅に到着した。

駅頭には東京片貝会を代表して安達会長、丸山副会長、佐藤幹事長らが出迎えたが、直ちに一行は宿舎の文京区の本郷追分館に入り旅装をといた。安達会長から一同の労をねぎらい激励のあいさつがあり、本会より経費の一端として金一封を進呈した。

対戦成績＝一回戦不戦勝
二回戦＝広島14・15＝片貝4・3完敗

意気はさかんであったが体位の劣勢はおうべきもなかった。郷土東京の応援者、約八十名。

三仏生会総会

役員の若がえり

昭和四十八年度の小千谷市東京三仏生会総会は去る三月四日午後二時から大塚駅前の「角万」を会場に開催した。

本会より小林敬司副会長が来賓として参席した。一同控室に参集したあと、写真の撮影をおこない、会場の宴席につく、和田重太郎会長のあいさつがあり、これまでの年配の役員総退陣してかわって青年層からすぐった新役員が選出され、なれぬ手ぎわながら誠意をこめて議事をすすめる。

それより全員の自己紹介があり祝電の披露、来賓の祝辞にうつる。小千谷タイムズの小見山社長が高速道路の計画案について小千谷近郷町村の将来性などを語り、また地元三仏生区長、支部団体代表として小千谷、片貝、吉谷、五辺など東京会の来賓から親情な祝辞があり、一同祝杯をあげなごやかな春日の午後を歓笑に過し、お土産のサービスなどがあり五時過ぎ散会した。

郷土だより

片貝地区の県道が完工

最近、地域経済の開発をめざし道路の改修拡張工事がひんぴんとおこなわれているが、ながい間の懸案であった県道、長岡、片貝、小千谷線の片貝地区幅員拡張ならびに補装工事が完工して二月二日片貝公民館ホールで記念の完工祝賀会が協議会有志関係者参加のもとに開催された。

ついで塚山線の幅員拡張工事が寺町仲使山墓地入口から西へ僅かばかり開始されたが、その進捗が期待されている。

関東信越高速自動車道 片貝は素どおり

インターチェンジの設置をめぐっていろいろと取沙汰されていた高速自動車道は、長岡市の西方と小千谷市桜町地区に内定し、桜町から信濃川を横断し川口町に進むという。片貝地区では沼田の裏側を通過する予定で、真無岬とは全く関係なく素通りとなり経済的効果は期待はずれとなった。この道路敷幅員は六十メートル、四車線（車道二十三メートル）で積雪地域通過に施工の新工夫がもられているとか。

寺町のバイパス

寺町の南側を通る石油資源開発道路の補装が十三畑奥の砂利採取をもくろむ事業会社の寄付で開始された。これまで狭かった寺町道路もこのバイパス路の完成で交通事故などの憂いは漸減するだろう。

小学校百年記念事業 寄付募金に活

明治七年に創立された片貝小学校は本年が百年に相当するので、これを記念する事業計画がすすめられ、地元寄付をはじめさきに関係離郷者たちへこの事業計画書を付し資金の募集が勧誘されている。すでに各方面から熱意ある寄付金がよせられているが、予算額にはいま一段の奮起といわれており、まだ応募されぬ方はぜひ芳志を願いたいと片貝記念事業会から要請があったのでよろしく。

人事だより

◆…四月新学期の県内教員の異動により、片貝小学校長、吉田一雄さん（池津）は五ヵ年間を勤務されたが、このたび十日町市川治小学校長へ転出された。後任には北蒲原郡水原町分田小学校長、植村啓一さん（長岡）が着任された。植村さんは十二年前、校長をつとめられた植村慶治さんの長男で、くしくも親子二代、片貝小学校に勤務されることになった。

◆…さる二月十七日付で片貝駅長杉浅仲助さんは上越線小出駅管理助役に転出、後任に信越線来迎寺駅首席助役の国分三郎さんが着任した。

支所屋上にチャイム

新野製菓会社の寄贈によるチャイム受信施設が二月十一日に完成小千谷消防署で発信する電波により、午前七時と十一時三十分および午後五時と九時の四回にわたり時報が鳴り出した。ことに夜のチャイムは火災の予防に町民の注意を呼びかけている。

芝桂七さん逝く

本会の長老、相談役の芝桂七さんが去る三月三日午前十時三十分江戸川区北小岩町三ノ一八ノ一八の自宅で脳卒中の発作で死去した。葬儀は翌四日、稲田の西念寺（東京）の導師により執行された。本会からは悔みに安達龍作さんがでかけ焼香をささげた。行年八十三才。

芝さんは明治二十二年六月二十五日、片貝の四ノ町、芝新七家に出生、日露戦役生き残りの勇士、単身上京後は赤手奮闘し関東大震災に遭遇し類焼の厄にあったが、戦後第百生命社員となり、江東、小岩地区で活躍した。一昨年職を退き自宅で保養につとめていた。

盆栽、コットウなど多趣味であった。また、敬神崇仏の念厚く郷里の浅原神社、学校、花火などの寄付をはじめ茨城の西念寺（しんらん上人が教行信証の教義を執筆された寺）のご坊の建築には多大の寄進をおこなわれるなど、かくれた篤行家であり、ガンコ一徹な半面があったが、気骨のある明治生れの典型的人物であった。

（写真はありし日の芝さん）

安達友治さん

奈良在住であるが、しばしば東京片貝親睦総会に顔をみせていた安達友治さんは旧冬入院し手術後自宅療養中であったが病状悪化し四月初旬再入院したが二十八日午前十時三十分死去した。（病因は肝臓癌）享年六十四才、友治さんは昭和七年ごろから奈良市で軽印刷業を開業、戦後は奈良県軽印刷工業連合の会長や顧問をつとめた。葬儀は三十日午後二時から奈良市鍋屋町一九の自宅で執行されたが、焼香者は五〇〇人の多数にのぼった。（片貝一ノ丁島屋出身）

自動車・電気機械
各種精密ねじ製作販売
株式会社 安達螺子製作所
代表取締役 安達宗吾
東京都港区三田1丁目九番13号
電話東京 451−1604

日立電動工具ストール店
各種木工用電動具
大工道具・建築金物
高級刃物・合鍵複製
井ゲタヤ商店
小林敬司
東京都江東区北砂町4丁目40−9
電話東京（644） 2562